

刑 法

(問 題)

2023 年度

注 意 事 項

1. 問題冊子、解答用紙および貸与六法は、試験開始の指示があるまで開かないでください。
2. 問題は2頁に記載されています。問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁および汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
3. 下書用紙は一人につき一枚のみ配付します。
4. ラインマーカー、色鉛筆、修正液等は、問題冊子・下書用紙に使用することを許可しますが、解答用紙に使用した場合は、不正行為とみなすことがあります。
5. 貸与六法への書き込みは、不正行為とみなすことがあります。
6. 試験開始の指示の後、解答用紙表紙の所定欄に、受験番号、氏名を記入してください。受験番号は正確に3箇所に入力してください。読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意してください。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記用具を置いてください。終了の指示に従わず筆記用具を持っていたり解答を続けた場合は、不正行為とみなすことがあります。
8. 試験終了後、問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
10. 解答用紙に記載の注意事項もあわせて確認してください。

問題 (120 点)

以下の〔事例〕を読んで、〔設問〕に答えなさい。(設問の解答にあたっては、住居等侵入罪及び特別法違反の点を除く。)

〔事例〕

1. 甲、乙は、資産家丙が妻Aと2人で住んでいる丙宅に侵入し金品を窃取することを共謀した。
2. 甲、乙は、某日午後3時頃に両名で丙宅を下見したうえで、一旦帰宅し、同日午後9時頃、再び丙宅前に自動車で赴いた。午後10時頃、甲、乙は、丙宅の照明が全て消えたのを確認した。そこで事前の計画通り、甲は特殊開錠器具を使って丙宅に侵入し、乙は丙宅の前に停めた自動車の中にとどまり、見張り役を務めた。乙は、甲が丙宅に侵入した直後、消防車のサイレンを聞き、火事で警察が来たりするとまずいと思い、甲に電話を掛けて、「今日はやめた方がよい。」と告げた。これに対して、甲は「大丈夫だ。」と言ったので、乙は、「俺は帰るぞ。」と言って、自動車を発進させて逃げた。甲は、乙が自動車を発進させた音を聞いたが、計画通り犯罪を遂行することとした。そして、甲は、丙とAが2階の寝室で就寝中であると考え、1階の応接室に立ち入り、照明をつけて、金庫の方に向かいかけた。
3. 丙は、2階の寝室ではなく応接間のソファで寝ていたが、照明と物音で目を醒まして、甲に気づき「泥棒！」と叫んだ。甲は、丙に捕まるのを避けるために、携帯していたサバイバルナイフで丙に切り掛かろうとした。丙は、身を守るために、手元にあった花瓶を甲に投げつけたところ、甲の手に当たりサバイバルナイフを落とさせるとともに、物音に気付いて2階から降りてきたAにも当たり、Aに全治2週間の傷害を負わせた。甲は、財物の取得を諦め逃走した。
4. 後日、甲は、丙に顔を見られたことやナイフを丙宅に残したことから、自己の犯行が警察に知られて逮捕されるのではないかと考え、友人の丁に、自己の犯行を話したうえで、警察に何か聞かれたら、その日は一緒に飲んでいただけと述べてほしいと依頼した。丁は、これを承諾し、甲が逮捕された後、警察に呼び出されて、甲の友人として甲の行動等について尋ねられた際に、「その日は甲と一緒に朝まで飲んでいたので、甲はその事件の犯人ではない。」と嘘を述べた。しかし、警察は、その話を信じることはなく、甲が釈放されることはなかった。

〔設問1〕(40点)

丙について、Aに対する傷害罪(刑法204条)が成立しないとの結論を導くためには、どのような説明が考えられるか。考えられる説明を4つ挙げた上で、それぞれの当否を簡潔に論じなさい。

〔設問2〕(80点)

甲、乙、丁の罪責について論じなさい。

〔以下余白〕